

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第 9 号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類越冬世代成虫のその後の発生推移および新世代の発生予測について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

記

1. 発生状況：

- 1) チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数は、合志市、宇城市では 7 月に入り減少したが、天草市では急増し 7 月 5 半旬には 1,546 頭（平年 35 頭）に達した。一方、フェロモントラップの誘殺数も同様の傾向であり、7 月 3 半旬には 2,164 頭（平年 79 頭）まで増加した（図 1～3）。
- 2) チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップによる 7 月第 1～5 半旬の累積誘殺数は、天草市が平年比多、宇城市が平年並、合志市は平年比やや少であった（表 1）。
- 3) 7 月下旬に行った果樹カメムシ類によるヒノキ球果の口針鞘数調査では、県内 9 地点の平均が 1 果あたり 6.2 本（平年 2.0 本）と平年より多く（図 4）、福岡県が開発した予測式によると、新世代成虫が球果から離脱するのは 8 月 23 日頃と予想された（表 2）。
- 4) ビーチング調査におけるヒノキ球果に寄生するカメムシ類の成幼虫数は平年並であったが、7 月 4 日に 4 齢幼虫が見つかったことから 7 月中旬頃には新世代成虫が発生し始めたと思われる（図 5）。
- 5) 普及指導員や病虫害防除員への聞き取りによると、園地でのカメムシ類の発生は各地で確認しているものの、今のところ被害は認められていない。

2. 防除対象作物：果樹類（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ等）

3. 防除上注意すべき事項：

- 1) 果樹カメムシ類は主に山林のスギ・ヒノキ球果を餌として増殖し、球果の口針鞘数が 25 本／果を超えると餌の状態が悪くなり、増殖場所から離脱して周辺の果樹園へ飛来する。
- 2) 現時点での被害は認められていないが、天草市においてチャバネアオカメムシの誘殺数が急増し、ヒノキ球果の口針鞘数が平年より増加していることから、新世代成虫が餌不足から早期に園地へ飛来する可能性があり、被害の発生が予想される。
- 3) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するので、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。なお、カメムシ類は夜になる

と園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。

4) 被害が認められた場合は直ちに防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散(ドリフト)に注意する。

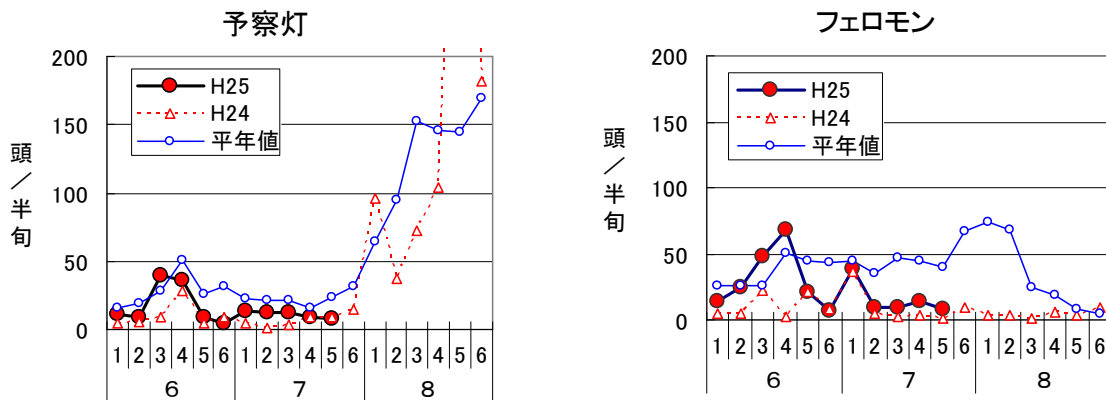


図1 合志市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 農研センター)

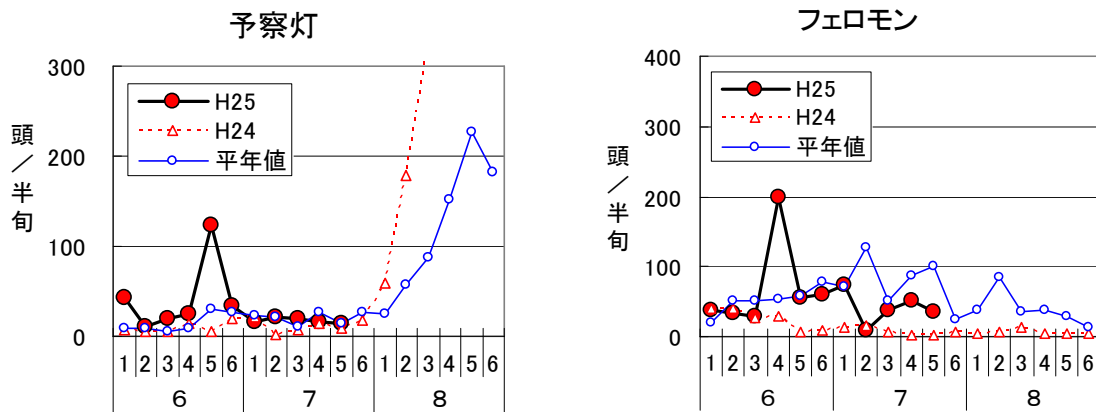


図2 宇城市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 果樹研究所)

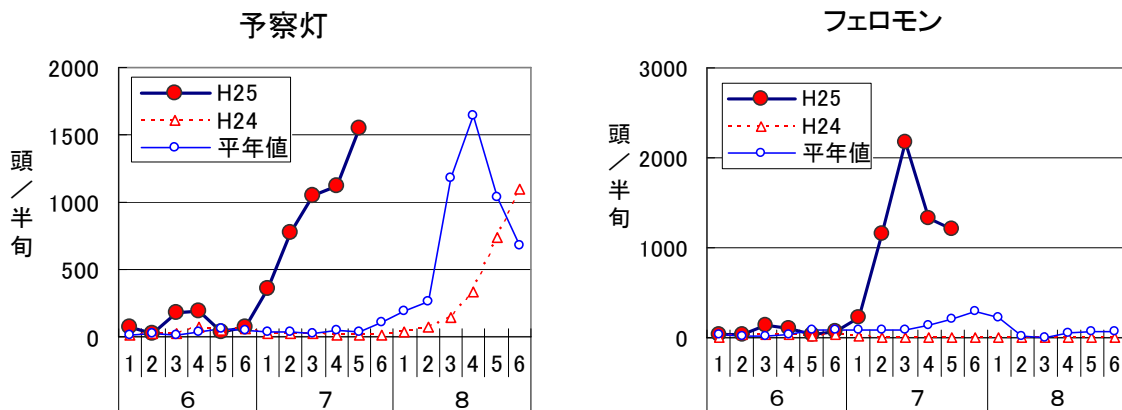


図3 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 天草農業研究所)

表1 各地域におけるカメムシ類の誘殺状況(7月第1~5半旬合計)

地域名	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	予察灯	フェロモントラップ ^o	予察灯	フェロモントラップ ^o
合志	54 (106)	80 (211)	5 (28)	0 (0)
宇城	88 (95)	206 (438)	183 (35)	3 (3)
天草	4,846 (178)	6,081 (602)	915 (129)	105 (4)

単位: 頭、() は平年値

表2 球果からの離脱予想日（福岡県が開発した予測式を使用）

1果当たり口針鞘数(X)	離脱までの日数(Y)	離脱予想日
6.2	32	8月 23日

計算式： $Y = 53.93 - 3.559X$

Y: 調査日(7月下旬)から離脱日までの日数

X: ヒノキ球果の口針鞘数

(調査日: 7月 22 日)

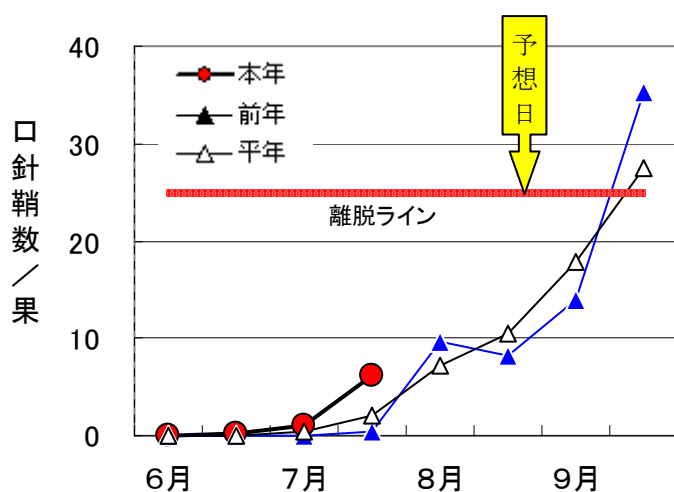


図4 ヒノキ球果口針鞘数の推移

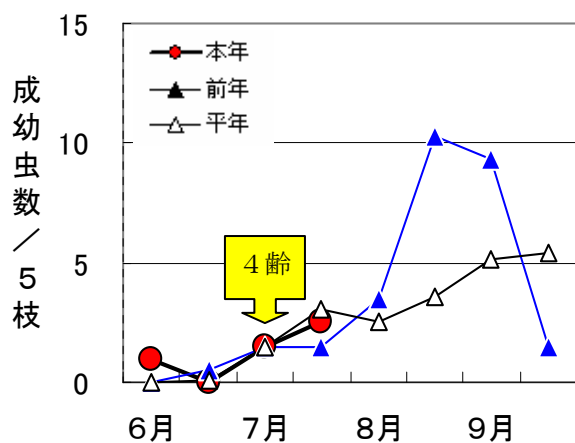


図5 ヒノキ球果に寄生する成幼虫数の推移（ビーティング調査）

熊本県病害虫防除所
 (生産環境研究所)
 担当: 清永
 TEL 096-248-6490